

県社協のひびき

地域支援はまず家族を知ることから

保護司部会では、去る七月三十日、「社会を明るくする運動」強調月間に合わせ、民生委員児童委員部会との共催で「青少年問題を考える集い」を開催しました。今回は四名の発表者を迎え、具体的事例をもとに、地域支援のあり方について意見をいただきました。

子どもたちの声を電話で受けとめる活動を続けている、よこはまチャイルドライン代表の徳丸のり子さんは、これまで相談傾向を踏まえて、「新たな地域支援の形態の一つとして、子どもが気軽に相談できる場を広げたい」。里親の田口ゆり子さんは、「現在養育している里子の育ちの変化を通じて、家庭の持つ力が大きいことを実感している」と話し、子どもにとって、自分の心の中を話せる場所が必要であることを強調しました。



田口ゆり子さん(右)の傍らで発表を見守るふみえさん(左)

さらに、田口さんと養子縁組された田口ふみえさんは、里子として養育され、現在に至るまでの心境を盛り込みながら、「里子同士が悩みを打ち明けられる場が欲しい。また、里親制度に対する理解と協力をお願いしたい」と訴え、その堂々たる発表に大きな拍手が沸きました。

また、長年にわたり児童の自立支援活動を行っているえんどうホーム代表の遠藤浩さんは、「幼少期の様々な愛着の体験が、人を知り

言葉を獲得していくもの」として、この時期の関わり方を重要視しています。

親子関係が希薄になってきていると言われる昨今、地域の支援者として家庭に関わることは容易ではありません。そのためには、現代の家庭や家族について実態を知ることが大切で、世代を越え問題を共有し、考える場として、この集いの成果が得られたのではないかと思います。

(生活支援担当)

第42回神奈川県社会福祉研究発表大会発表者募集のお知らせ

平成16年2月に開催予定の本大会での発表者を募集します。この大会は、福祉従事者の方々の主体的・自主的研究活動の支援と、その研究成果の普及・普遍化を図ることを目的として、毎年開催しています。ぜひこの機会に、日ごろの研究成果を発表してみませんか？

- 【期 日】平成16年2月13日(金)
- 【会 場】県社会福祉会館(横浜駅下車徒歩10分)
- 【発表内容】県内在勤の福祉・保健・医療関係従事者による研究または実践内容であれば自由
- 【発表形式】口頭発表(分科会形式によるコーディネーターのもとでの発表)もしくは展示発表(掲示物等による発表)※形式については、別途協議させていただく場合もあります。
- 【切 り 込】10月31日(金)※発表者は「研修研究支援事業推進委員会」で審査、決定の上、後日文書にて通知します。
- 【問 合 せ】かながわ福祉人材研修センター研修研究課
☎045-311-1429・FAX045-313-0737

【最近の発表の主なテーマ】

- 〈児童のケア〉
 - * 被虐待入所児の家庭復帰に向けた処遇～心理職員との共働の中で～
 - * 児童相談所で扱った重篤な性的虐待を受けた思春期女児への援助の過程を通しての実践報告
- 〈障害者のケア〉
 - * 知的障害者施設における高齢者へのケアについて
 - * 身体障害者療護施設における重度重複障害者の「問題行動」と個別支援
 - * 知的障害者更生施設における多飲水と水中毒
 - * 中軽度知的障害児への就労支援のあり方について
 - * 単身生活を支える社会資源と支援のあり方の検討
- 〈子育て支援〉
 - * 保育園に子育て広場をつくろう！
 - * 保育園における地域子育て支援活動
 - * 親子の居場所調査から見える子育て支援の現状と提案
 - * 子育ての視点からみた福祉のまちづくり
- 〈リスクマネジメント〉
 - * 社会福祉施設における利用者間の暴力とその管理
 - * 施設におけるリスクマネジメント～ヒヤリハット報告書から得られたもの～
 - * 知的障害者施設における身体拘束について
- 〈地域・人材支援〉
 - * 聴覚障害者の立場からみた支援費制度の課題～障害福祉相談員の役割～
 - * 新人OJTにおける指導課題の掘り起しとその取り組み

